

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【北部・北西部地域】

日 時：平成 26 年 10 月 22 日（水）19:00～21:00

場 所：和泉市コミュニティセンター 1 階大集会室

参加者：【北部地域】

信太中学校区 5 人 富秋中学校区 5 人

【北西部地域】

和泉中学校区 9 人 郷荘中学校区 8 人

和泉市 7 人

アルパック 4 人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第 3 回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の 10 年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

北西部地域

【1 和泉中学校区グループでの話し合い】

（１）考え方の背景・地域の現状など

- ・地域には優れた歴史や自然資源が豊富である
- ・掃除や挨拶運動、地域の見回りなど地域でできる取組はすでにいろいろとやっている
- ・子どもから大人まで昔とは違い挨拶をしないようになった。人のつながりや交流がなくなっている。子どもが夜遅くまで外で騒いでいる。これらはすべて道徳教育が不足しているためなのではないか

（２）地域の将来の方向性・そのための課題など

●子育てしやすいまち

- ・子育てしやすい街、全国一の子育てのまち

- ・若者が住みたくなるまち
- ・歴史を含めた文教都市
- 人と人のつながりのあるまち
 - ・人とのつながりのあるまち
- 高齢者が住みよいまち
 - ・高齢者の住みよいまち
- 美しいまち
 - ・ごみのないまち
 - ・湧水のあるまち
 - ・新しい駅前と古い町並みの共存
- 安心・安全なまち
 - ・安全な街
 - ・自然災害に強いまち
 - ・静かで落ち着いたまち
- 生活しやすいまち
 - ・活力あるまち
 - ・生活しやすいまち
 - ・買い物が便利なまち
 - ・生活環境が良いまち

(3) それに向けたまちづくり

- 子育てしやすいまち
 - ・駅前に大規模保育所をつくる。乳幼児教育の充実
 - ・子どもが安心して遊べるところをつくる。人生に必要なことのすべてを幼稚園の砂場で教わった
 - ・家庭教育の大切さを改めて重視する
 - ・自然教育の充実
 - ・保健センターでの母親教育の充実
 - ・道徳教育を大人から子どもまで行う
- 人と人のつながりのあるまち
 - ・地域内でのさらなるふれあい
 - ・行き交う人々が挨拶をする（フランスでは子どもに会うとほとんど挨拶が返ってくる）。挨拶のできる教育を徹底する（大人から子どもまで）。挨拶運動を進める
 - ・礼儀正しさの教育、道徳教育の徹底
 - ・世代間交流する場所をつくる

●高齢者が住みよいまち

- ・独居老人へのケアを充実させる
- ・高齢者の雇用を確保する

●美しいまち

- ・道路に名前をつくる
- ・ドイツ式まちなみづくり（窓を磨かないとルール違反で罰則があるなど）
- ・歴史資源を観光資源として、分かりやすいコースを設定し、説明看板を立ててはどうか
- ・道路のカラー舗装化

●安心・安全なまち

- ・地域にもっと多く防犯カメラをつけてもらいたい
- ・青パト、防犯、防災の取組

【2 郷荘中学校区グループでの話し合い】

（１）考え方の背景・地域の現状など

- ・人のつながりや交流がなくなってきている
- ・町会の加入率が半分以上となって、近所の人を知らない状況
- ・青年会、子ども会も参加者が少なくなってきた
- ・子どもが遊ぶ場所がない
- ・地域には優れた歴史や自然資源が豊富にあるが、そこまでいく歩道が整備されていない。公園や福祉会館などまでの歩道が整備されておらず、アクセスしにくい

（２）地域の将来の方向性・そのための課題など

●子育てしやすいまち

- ・今の子どもたちが大きくなっても、そのまま住んでくれるまちであってほしい
- ・子どもが安心して遊べる公園がほしい。習い事をしている子どもが多く、公園があっても遊ばないようだ。また不審者の事件もあり子どもだけで遊ばせられないらしい

●人と人のつながりのあるまち

- ・地域に住んでいる人の顔が分かるまち
- ・様々な年代の交流が出来るまち

●住み続けられるまち

- ・高齢になっても、やりがいや活躍の場があるまち
- ・豊かな自然、田園風景、歴史的な建物が残っているまち

（３）それに向けたまちづくり

●歴史的な資源や自然を活用したまちづくり

- ・愛着のあるお寺や街道のまちなみなどは残していく
- ・豊かな自然があるので、市民に開放しながら活用していく
- ・資源をつなげる歩道を整備することで、観光に利用する。歩道を整備してくれたら、アドプトロードを行うことはできる
- ・観光ガイドを地元の人が行い、地域への愛着を向上させていく
- ・農業を維持するのは今のままでは難しく、田園風景がなくなってしまう。農地を整備し維持していく

●人と人のつながりのあるまち

- ・いきいきサロンなど、活動をしている
- ・場所の整備と、そこまでの歩道の整備がまず必要
- ・きっかけや集まる場所があれば、人を誘いやすい
- ・地域のつながりができれば、独居老人の問題も解決できる

●住み続けられるまち

- ・いきいきパトロール、アドプトリバーなどの取組はやっている
- ・元気なお年寄りが多いので、地域の子どもを見守る制度が出来ればよい
- ・人の為になることをやりたい高齢者の方が多い

●行政と地域の関わり

- ・今は動員がかかって参加している状態であるが、もっと自発的な関わり方ができるようにしたい
- ・まちに来てくれた人と積極的に地元の人が交流することで、このまちを好きになってもらいたい

北部地域

【3 信太中学校区グループでの話し合い】

(1) 考え方の背景・地域の現状など

●様々な歴史・文化の資源があるが、活かされていない

- ・小栗街道は全国の歩きたくなるみち 500 選にも選ばれており、街道沿いの町並みは良いが、統一感がない。古いものが残った良い場所もあるが、新しいものもあり、それらをどうすり合わせていくかが課題だと思う
- ・弥生文化博物館が良い。弥生文化だけで博物館となっているのはここだけであり、学芸員の人も良いが、あまり知られていないのが残念
- ・古墳や遺跡など、様々な歴史・文化の資源が点在している

●身近に豊かな自然環境があるが、あまり利用されていない

- ・公園は多いが、子どもが公園でできることが制限されており、利用者が少ない

- ・惣ヶ池には多様な動植物がいて、とても良い環境だが、あまり利用されていないのが残念
- ・鶴山台志保池公園の利用者が少ない

●団地の居住者が高齢化している

- ・鶴山台の団地は高齢化が進み、このままだとゴースタウン化する心配がある
- ・エレベーターが設置されていないため、高齢者が暮らしにくい

●商店街の元気がない

- ・北信太駅周辺の商店街の元気がない
- ・地元に住んでいてもどこが商店街かわからない

●まちの人が集まるスペースがない

- ・ちょっとしたおしゃべりなど、気軽に地域の人たちが集まることのできるような場所がない

●保育所が多い

- ・和泉市は保育所が多いのが特徴

●自治会への加入者が少ない

- ・熱心に活動しているところもあるが、自治会の加入者が少ない地域がある。特に団地の賃貸の居住者の加入率が低い

●さまざまな活動が行われている

- ・鶴 one フェスタが開催されている
- ・信太の森ふるさと館では芸能祭が行われ、地域の子どもたちが芸能を披露する
- ・中部地域ではジャズストリートが開催されている
- ・老人会でモーニングサロンをしていて、楽器を演奏したりしている

●北部リージョンセンターが新たにできる

- ・図書館ができるのは魅力的に感じる
- ・北部地域全域の人たちで集まるということではなく、もっと小さな単位で集まることが多いため、普段気楽に集まることができる場として利用の仕方ではないと思う。地域の拠点としてどのように活用していくのかイメージができない
- ・防災の拠点としては使えると思う

(2) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●いまある地域資源を活かす

- ・和泉市には、様々な歴史・文化の資源があるので、これらを活かし、保存するだけでなく利用していきたい
- ・近くに豊かな公園や自然がある。子どもだけではなくお年寄りも含めた、地域の人たちが楽

しめるような公園や自然が必要

- ・住む場所としての魅力と観光としての魅力と両方が必要。地域の人も外から来た人も楽しめるようにしたい

●若い人が住みたくなるまちにする

- ・団地の高齢化や商店街の衰退を防ぐために、若い人を呼び活気をつける
- ・子育てしやすいまちにする

●コミュニティを育てる

- ・自治会のつながりは重要である。日常生活においては問題ないかもしれないが、災害時など非常時には地域のつながりが必要。これまでの教訓を活かして、地域のコミュニティを育てていかなければならない
- ・防災・防犯などをきっかけとして地域のコミュニティを育てていきたい

(3) それに向けたまちづくり

●豊富な地域資源を発信する

- ・他のまちの、歴史的なまちなみは魅力的で、そこには統一感がある。統一感のあるデザインにすることが必要
- ・いろいろな資源が点在しているため、それらをつなげていき、また発信できるような仕掛けをつくる
- ・見所マップを作成する
- ・外から来た人が食事できる場所をつくる

●新しい店や、新しい活動場所をつくる

- ・商店街に若い人を呼び、お店を開く
- ・団地の一階に地域の人たちが集まることができる場所をつくったり、お店を開いたりできるような場をつくる

●自治会の活動が見える化する

- ・こういった活動をしているかわからないと、入る意味が感じられないため、活動が見えるように工夫する

●市民がいろいろな活動を開催する

- ・豊かな自然を活かして、自然の中で音楽をしたい
- ・中部でやっているジャズストリートを北部でもやるとよいと思う

【4 富秋中学校区グループでの話し合い】

(1) 考え方の背景・地域の現状など

●歴史資源や自然資源がある

- ・池上曽根遺跡や聖神社、信太山丘陵や惣ヶ池などの資源がある

●「だんじり」を中心とする濃厚なコミュニティがある

- ・月に1回は顔を合わせて会合しており、つながりが濃厚
- ・だんじりに参加するには、子どもの頃から町会に入っておくのがスムーズ。それを目的に町会に加入する人もいる

●すでに色々な取り組みを地域住民（町会単位）で実施している

- ・青年（青年団や若頭会など）による貢献（町内のそうじ、墓そうじ、こどもの日の夜店など）
- ・老人会に貢献（公園の維持管理など）
- ・自治会への貢献（年末夜警、高齢者への配食運動など）

⇒色々な住民とあいさつをするきっかけになっており、好評。子どもも参加するので、世代を超えた交流の場となっている

●地域の外から入ってきた住民は、少しなじみにくいかもしれない

- ・町会を土台としたコミュニティと、新しい住民は、あまり接点がない
- ・だんじりは華やかだが、交通渋滞などの原因にもなり、参加しない住民の理解を得にくい

●そもそもだんじりは、まちづくりと関係する祭りだった

- ・もともとは、収穫を祝うためのお祭り
- ・昔は道がでこぼこだったので、それを平らにするために、町内の道を巡行する意味もあった
- ・今では、この祭りの意味合いが薄れてしまっている
- ・だんじりの時期は、地域の経済が活性化（消費が活発になるため）

●自主参加の活動もある

- ・池上曽根遺跡周辺では、アドプトロードの仕組みで「花を咲かそう会」が花育てをしている
- ・そのおかげで、たばこのポイ捨てが減った

(2) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●伝統を土台にしたコミュニティの継承

- ・生活の中での考え方は、親から子へ受け継がれていくもの。伝統が受け継がれていくものになるコミュニティがしっかりあるので、それをこれからも継承していきたい
- ・今も、高齢者への対応など、課題対策の活動をしている。その基盤は、強固なコミュニティ
- ・だんじりや町会の活動への理解を得ないと、活動が先細りしてしまうかもしれない。地域への貢献活動を通して、理解を広めていく必要がある
- ・だんじり祭りの時、道の上にごみが散らかるのを女性たちが掃除している。そういう力を、

ほかに活かせるといい

●それ以外のコミュニティ

- ・伝統的なコミュニティ以外の住民も気持ちよく生活するために、だんじりとは関係なく参加できる行事などをきっかけに、交流をしていくのが大切

(3) それに向けたまちづくり

●伝統的なコミュニティの力を、色々な活動に活かしていく

- ・まちづくりで地域に貢献することで、まちもよくなり、町会や青年団などのコミュニティへの理解も広がる。そのために、公園など多くの人が利用する場所の掃除など、他の住民と触れ合うきっかけを意識して取り組んでいく

●歴史的な資源や自然を核にしたまちづくり

- ・地域の誰でも参加できる、開かれた「交流の場」づくりに取り組んでいく（行事の開催など）

●課題対策のための活動

- ・今取り組んでいる、高齢者対策の活動などを続けていく

5 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

6 閉会

次回開催日時と内容について、説明がありました。

- ・開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
(開催日が決まり次第郵送にて案内)
- ・内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針(案)(地域別構想案)」
についての意見交換

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【中部地域】

日 時：平成 26 年 10 月 28 日（火）19:00～21:00

場 所：和泉シティプラザ 地下 1 階多目的室

参加者：【中部地域】

北池田中学校区 11 人 南池田中学校区 9 人

石尾中学校区 10 人 光明台中学校区 6 人

和泉市 7 人

アルパック 5 人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第 3 回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の 10 年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

中部地域

【1 北池田中学校区グループでの話し合い】

（1）地域の将来の方向性・そのための課題など

●地域の人たちが交流できるまち

- ・コミュニケーションを活発化させる。世代間交流ができるようなまちにしたい
- ・イベントが多く、楽しいまちにしたい。イベントをきっかけとして地域の人たちの交流が生まれればよいと思う
- ・子ども会や婦人会、自治会などの加入が少なかったり、そういった集まりがなかったりする。現在の地域の人たちに合わせた、新しい交流できる仕組みづくりが必要だと思う

●子育てしやすいまち

- ・子育てにやさしいまち、子どもたちが住みたいと思うまちにする
- ・ファミリーサポート体制をつくるなど、子育てに関する体制を充実させる

- ・お父さん・お母さんが仕事をしながら子育てできるような環境が必要だと思う
- ・地域の子どもと高齢者が交流できたらよい

●高齢者が元気なまち

- ・脳も体も、高齢者が元気なまちにしたい
- ・高齢者が働ける環境が地域にあるとよい

●教育のまち

- ・地域と大学との交流が大切
- ・若い人に和泉市に住んでほしい
- ・教育のまちとして、子どもも大人も学べる環境にしたい

●地場産業を発信する

- ・地場産業を PR できるまちにしたい
- ・地産地消文化が根付かせられるようにしたい

●愛着がもてるまち

- ・地域の人たちが愛着を持ち、住み続けたいと思うまち、出身者が和泉市に戻ってくるようなまちにする

●自然を大切にする

- ・緑や水など自然を大切にし、ゴミのない美しいまちにする

●地域の現状に合ったインフラや施設の整備

- ・和泉中央駅周辺はまちの状況も変わってきて、現在の人の流れに動線計画が合っていないように思う
- ・歩道橋が使いにくかったり、横断歩道が必要だと感じる場所がある
- ・コンパクトシティ化する。医療施設をまとめた方がよいのではないか
- ・トリヴェール和泉の基本計画を守って行ってほしい
- ・道路の整備が必要

(2) それに向けたまちづくり

●地域の人たちが交流できる仕組みづくり

- ・弘法寺では肝試しやジャズなどイベントを開催している。そういった活動はとても良いと思う。イベントのような単発のものだけではなく、常にかかっている場所も必要だと思う
- ・公園などにカフェを作り、みんなが気軽に集まれるような場所があるとよい
- ・おもしろいイベントを企画する。ジャズストリートや歩くイベント、B 級グルメ、盆踊りなど様々なイベントがある。新しいイベントを企画して交流のきっかけをつくる
- ・自治会館の利用があまりされていないので、子どもとお年寄りとの交流の場（勉強をみても

らうなど）に使うなど、管理も含め、新しい利用の方法を考える

- ・高齢者が地域の中で働ける環境をつくり、それが高齢者同士や子どもとの交流にもなるとよい
- ・現在桃山学院大学の学生が子どもたちに勉強を教えるなどの活動をしている
- ・和泉市の野菜を活かして、農家で子どもが何か体験できるような企画をする
- ・旧村と新興地との交流が和泉市には必要
- ・コミュニティを育てることは大変なことで時間がかかると思うが、何かきっかけを作らないと何も変わらない。10年後に向けた土台を徐々につくっていければいい

●自然を守るための活動をする

- ・自治会でゴミ拾いなどをしてきている
- ・道路の中央分離帯のところの緑など、現在手入れされていない場所がある。緑の維持のための活動が必要
- ・年に1回美化運動をするのはどうか
- ・槇尾川の河川沿いを遊べるようなオープンスペースにし、利用できるようにすると、自然がきれいに保たれるようになるのではないか

●地域の現状に合わせた計画づくり

- ・時が経つとまちの状況も、そこに住む人の状況も変わってくる。現状に合わせた計画づくりが必要

(3) その他

- ・桃山学院大学からプロ野球選手を輩出したい

【2班：南池田中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●住み替えながら、住み続けるまち

- ・市外に働きに行くにも交通事情が良く、基本的には便利で住みやすいまち
- ・結婚後すぐの夫婦、小さい子どもがいる家庭、中学生くらいの子がいる家庭、子どもが家を出て二人暮らしになった夫婦、という段階によって、必要な家の大きさが違う
- ・それに合わせて市内で家を住み替えれば、和泉市に気持ちよく住み続けられると思う

●子育てのしやすいまち

- ・住みやすく、夫婦ともに働きやすいまちにするために、子育ての支援をして子育てしやすいまちにする

●「集落」の良さを認識し、長所を伸ばす

- ・農地が残っていて、心地よい空間がある。それは、集落だけでなく周りのまちに住む人も恩

恵を受けている

- ・道路は狭いが、買い物に便利な施設が近くにあるし、住みやすいという意見もある
- ・生活環境を快適にしながら、良さを伸ばしていくことが大事

●「貴重な」自然・生物を守るまち

- ・自然は、住みやすい環境をつくり出してる資源
- ・谷山池は、絶滅寸前の生物もいるとされ、コウノトリも飛来した、貴重な自然資源。光明池も美しい

●ニュータウン内、集落内、ニュータウンと集落間のつながりのあるまち

- ・急に人口が増えたので、つながりが薄れてしまっている。つながりをつくっていく

(2) それに向けたまちづくり

●緑や自然を保全する

- ・谷山池を売却する話もあったが、これを守っていく取り組みを通して、地域の歴史への住民の理解が進む。まずは、地域住民が貴重さを広く知るべき。子どもへの体験学習もいい
- ・買い取って残すとなれば、莫大なお金がかかるので、その方法は考えていく必要がある
- ・観光地化してしまうと環境が荒らされるので、誰が利用する場所にするのか、考え方は整理する必要がある

●つながりづくり

- ・例えば光明池や谷山池の周りのウォーキングを通して、つながりづくりのきっかけをつくる

●空き家のリノベーション～外の人が入ってくるきっかけ

- ・廃業した工場の建物が、リノベーションされて生まれ変わった店がある（運営は市外の人）
- ・大学生など若者がたくさん訪れている
- ・身近なものを生まれ変わらせ、外から人が入ってくるきっかけづくりに有効

●地域で子育てを応援する

- ・今も地域では、老人会が自治会館で囲碁将棋などの遊びを教えているが、なかなか人が集まらない。塾などで忙しいらしい
- ・学校ともっと連携して、放課後に児童と高齢者が関わったり、校庭を開放してもらって高齢者が見守るなど、子どもが参加しやすい取り組みをしたい
- ・安心して子どもを任せられるのは、「身近な」人が「小さい」単位で見守ってくれること。高齢者の中でも特におじいちゃん世代が、自治会館や公園で子どもを預かってくれるような仕組みをつくっていききたい

●地域内での住み替え

- ・実際に、住み替えが起こっている例もある。そういったモデルの検討から始めてほしい

●農業したい人が集落に移り住める仕組み

- ・農業で生活が成り立つような仕組みをつくっていく。付加価値化、高度化、集団化など
- ・ふるさと納税で特色を出している都市もあるし、地元の店とコラボするというやり方もある。ブランド化すれば高く売れる。工夫を重ねていく必要がある

●テクノステージで働く

- ・物流関係の倉庫や工場が多く、雇用をあまり吸収できていない。もう少し市内の人が働ける産業を誘致できないか

(3) その他

- ・「まんべんなく」事業をするのではなく、力点を明確にして取り組んでほしい

【3班：石尾中学校区グループでの話し合い】

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●安心・安全に住み続けることのできるまち

- ・現状は子どもの遊び場所が少ない
- ・今より人が多くなると思うので、安全面（治安）を充実させるため交番（派出所）が欲しい
- ・災害時の避難場所が充実したまちになって欲しい
- ・子どもが安心・安全に暮らせるまちになって欲しい

●交通利便性の高いまち

- ・次の世代（今住んでいる人たちの子・孫）が住み続けたいと思うには交通環境の充実が不可欠である。道路整備の推進、坂道対策、バスの増便など
- ・高齢者が増えることを想定して交通の便を今以上に充実させる
- ・自転車専用通路を充実させる
- ・通勤・通学が便利じゃないと新たな人は入ってこない（のぞみ野などで人が増えているのはバス路線があるから）

●交流・つながりがあるまち

- ・住民同士の交流ができる事が大切
- ・若手が頑張っている自治会もある。そういうところを増やしていく
- ・子どもと親世代との交流を深めて、高齢者の存在価値を認識してもらう（頑張っている高齢者がいることを知ってもらい、自らも自治会活動等に参加してもらう）
- ・自分たちがこれまで取り組んできたノウハウ・経験を次世代に伝えていく
- ・一方で世代間交流等を必要としない（望まない）マンション住民等がいる。どうするべきかが課題である
- ・マンションが多い地区では自治会が無いところも多い

●環境が良いまち（ゴミがない等）

- ・キレイなまちは住んでいて気持ちが良い
- ・環境が整っているまちが良い（ゴミがない、空気がキレイなど）
- ・まちの雰囲気・たたずまいが良いまち

（２）それに向けたまちづくり

●地域での見守りを強化する

- ・住民の有志で子ども見守り隊を結成している取組がある
- ・緑ヶ丘やのぞみ野では青パトにより犯罪が減った（治安が良くなった）
- ・桃山学院大学の学生が子どもの見守りをする「桃パト」を発足させた。こういう取組を拡げて欲しい
- ・のぞみ野では準工業地域に遊戯施設の計画が出た際に協議会を立ち上げた経緯がある。普段からそういった事を想定して検討しておくことが必要と感じた

●交通対策を推進する

- ・コストコやららぽーと等の大規模商業施設の出店で交通量が増加しており、住宅地内の通過交通対策が重要である
- ・交通対策は地域だけではどうにもならない。行政を巻き込んだ対策が必要である

●つながりづくり

- ・自治会の役員の定年制など人が入れ替わるルールをつくる
- ・子育て世代の代表であるPTAを自治会活動に巻き込めないか
- ・「桃パト」の取組のように大学生を巻き込む
- ・自治会、マンションの垣根は取り払う夏祭りを行っている。結果、若い人の参加も増えており、こういう取組が重要である
- ・若者の手本となる、尊敬される高齢者にならなければいけない。そうすると、若い人もいずれは地域のまちづくりに参加してくれるようになるのではないか

●地域で美化・清掃活動を率先して行う

- ・商店主は自分の店の前だけでなく周囲も掃除をしてくれているところが結構ある。そういう人には自治会で感謝状を贈った。感謝する気持ちを表すことでお互いが気持ちよく活動に取り組める
- ・自治会でも美化・清掃活動は継続して取り組んでいる。「継続は力なり」で現状の取組を続けていくことが大事

【4班：光明台中学校区グループでの話し合い】

（１）地域の将来の方向性・そのための課題など

●高齢化に対応したまち

- ・お年寄りにやさしいまち
- ・お年寄りや移動が難しい場合が多いので、市内の移動手段が必要

●良好な住環境を保っているまち

- ・光明台は、かつては和泉市の芦屋と呼ばれ、高級な住宅地として有名であった。住宅地として充実し、また人気を復活させてほしい
- ・空き家が増えてきており、その敷地内の管理ができておらず問題である。道路にはみ出た庭の植栽等を除去できる仕組みなどが必要
- ・施設の老朽化への対応が必要。地区センターを再整備してほしい

●豊かな自然を活かしたまち

- ・光明池周辺など豊かな自然を活かしていくべき
- ・光明池だけでなく、自然環境が残っている場所が多く保全が必要
- ・自然と共存した取組があればよい
- ・廃棄物が放置されているところがあるので、対応が必要

●にぎわい・つながりのあるまち

- ・市民が交流する場が必要。活気があり、人と人のつながりが強いまちづくり
- ・地域の祭りやイベントが出来る場所を充実させてほしい
- ・子供たちの元気な声が絶えない住宅地にしたい
- ・子育てが容易なまち
- ・出会いの機会があるまち

●現状にあったハード整備

- ・施設などはある程度整っているのに、新規のハード整備は不要なのではないか
- ・住民による施設の維持管理ができる仕組みを充実させていくべきである

（２）それに向けたまちづくり

●自然を保全し、交流の場として活用する

- ・田・池などの原風景が残るルートをウォーキングすることで、健康にもよく、交流の場となる
- ・みかん狩りなどのイベントを企画する自治会もある。もっと、今ある環境を活かした交流の機会をつくるべきである
- ・単に観光地化してしまうと環境が荒らされるので、誰が利用する場所にするのか、考え方を整理する必要がある

●高質な住宅地の維持に向けて

- ・空き家を住み替えに使えるように管理していく必要がある
- ・雑草の除去など、空き地（空き家）の管理を地域住民でできるようにすべきである
- ・路上駐車が増えているのが気になる
- ・ナンキンハゼの街路樹は非常に美しく誇りに感じるが、落ち葉が邪魔になるため、落葉する前に剪定してしまう。落ち葉を積極的に掃除するなど住民が取り組んでいければ美しい並木を維持できる

●住宅地内で交流の場をつくる

- ・交流できる場づくりが必要
- ・公園等はあるがあまり使われていないことも多い。スポーツ大会やグルメ大会など多くの人が集まるきっかけをつくる
- ・地域にこだわらず、広い活動が必要。スポーツ大会などでは、市内の人々が集まれるようにしていくべきである
- ・地域の組織がつながる場が必要。自治会活動などを知らない人も多く、組織の垣根を越えた取り組みをしていくべき

●広場や公園の使い方を広げる

- ・地域には、人が集まれる広場や公園がたくさんあるが、ボール遊びなど禁止されていることが多く、現状あまり使われていない。地域の交流の場として、使える機会を増すべき、園内できることを増やすべきである
- ・池での釣りなども禁止されているが、釣りが出来るようになるとお年寄りが集まるようになる

4 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

5 閉会

次回の開催日時と内容について、説明がありました。

- ・ 開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
(開催日が決まり次第郵送にて案内)
- ・ 内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針（案）（地域別構想案）」
についての意見交換

以 上

和泉市都市計画マスタープラン

第2回 まちづくりワークショップ 記録

【南部・中部(一部)地域】

日 時：平成 26 年 10 月 29 日（水）19:00～21:00

場 所：和泉市南部リージョンセンター 2階大会議室

参加者：【南部地域】

槇尾中学校区 24人

【中部地域】

南松尾中学校区 5人

和泉市 7人

アルバック 3人

1 開会

開会のあいさつがありました。

2 ワークショップについての説明

事務局より、ワークショップの趣旨目的の説明と、本日の進め方、第3回の予定などについて説明がありました。

3 グループワーク

「身近な地域の10年後を考える」「みんなで取り組むまちづくりを考える」をテーマに、中学校区に分かれた話し合いがありました。

南部地域

【1 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ1

（1）地域の将来の方向性・そのための課題など

●人口減少を食い止める

- ・交通や買い物が不便、住みにくい
- ・若者は大学進学の時に出て行ってしまい、働き口を外で見つけて帰ってこない
- ・通勤圏に働く場所が無いから出ざるを得ない。ららぽーと開業でアルバイトやパートの口は増えるが、正社員を雇うわけでは無い
- ・企業誘致という話が出るが、企業が来ても地元から採用するとは限らない。テクノステージだって外から来る人が多い
- ・工場誘致ができれば地主は土地の賃借料で収入が見込める。しかし、工場を建てられる場所をどこにするかは悩ましい。特定の場所に決めたら不公平感が出る

- ・地域の資源である、農業・農地を活かして、活性化できないか。農業・農地であれば市街化調整区域のどこでも取り組める。不公平は無い

●地域の良さを活かす

- ・自然の中で子どもを育てられること、都市に近い立地などいい面を活かす
- ・「第二のふるさと」として、地域との縁で結ばれた人、心のつながりを増やしていく
- ・地域外の人は「都市に近い、ほどよい田舎の環境」にあこがれを持っている人も多い
- ・地域内の人はその価値に気づいていないことが多い。日常生活の不便が先にくる

(2) それに向けたまちづくり

●農業・農地の活用

- ・農用地はあるが、次の担い手がない。専業農家も減っている
- 新規就農を応援・指導する仕組みをつくって、ビジネス化する。ノウハウと農地を継承していく「教える」ことがビジネスになる
- 最近、都会から「半農半^{エックス}」のスタイルで地域に住み込む人を誘致する動きがある。参考にしては

●みかんで地域再生

- ・みかん山は、一度放置してしまうと、再生するのに10年くらいかかる。維持管理し続けていくことが大事
- 新規就農を受け入れる環境整備が必要。農地の貸し借り、家の貸し借り、販路開拓、初期投資などを地域がサポートする。そうしたサポートもビジネスの一環になる
- 「農家」を育成するので無く、「農業」つまり産業として成立させるために、今後はマーケティングやデザイン、HP活用も重視していくべき。そうした部分は若い人や都会の人が関わりやすい

●都市との連携・交流

- ・都市に近い立地環境を活かし、気軽に農業体験やレクリエーションできる仕組みをつくる
- ・企業と連携して山の維持管理をする（ENEOSの森のような）
- ・農業アルバイトや、ボランティアを受け入れる。徐々に地域になじんでもらって、交流のきっかけにしていく

●大学との連携

- ・桃山学院大学、大阪産業大学、大阪府立大学などの大学と連携した「森づくり」の取り組みが進められている。これを集落づくりに発展させていく
- ・空き家を使った「大学の現地ラボ」をつくる。地域もまちづくりと一緒に学び、地域づくりに役立てる。住民が学生に教えたり、学生から提案を受ける
- ・企業や大学との橋渡し役として、行政（市、府、土木事務所）のサポートに期待大

●地域情報の発信

- ・ほどよい田舎暮らしを求めている人は結構いて、問い合わせもある
- もっともっと不便な田舎の方が必死に情報発信している。地域に来て欲しいと思っていることを積極的に情報発信していかなければならない
- 地域外の人が横山のことをどう思っているのか、聞いてみたい。レジャーなどの交流の機会は良いチャンス
- 南部リージョンセンターが窓口になってくれたおかげでファミリー層が移住してきた。まさにファインプレー。地域情報の一元化と柔軟な情報の受け渡しが大切

●住みやすい地域へ

- ・よその人は「自然がいっぱいいいですね」というが、日常生活は不便なことが多い
- ・地域のお店が、電話注文の配達サービスを始めた。高齢者が増えてきた地域にとってはうれしいこと。応援していきたい

(3) 地域活性化の可能性の芽はある！

- ・市街化調整区域だから何もできない、何も無い地域だと思っていたが、違った角度から地域を見ることができたし、地域作りの可能性の芽はあると感じた
- ・現実には、生活上の不便さや法律の壁などもあり、簡単にはいかないが、地域の将来を前向きに考える良い機会になった
- ・今のままではだめ。希望を持って計画していくことが大事

【2 槇尾中学校区グループでの話し合い】グループ2

(1) 地域の将来の方向性・そのための課題など

●外から人が訪れ・住むまち

- ①まずは南部地域に遊びにきてもらって、この地域の良さや資源を知ってもらう
- ②地域での生活の不便なところや、必要な付き合いなどを知ってもらうため、一定期間体験で住んでもらう
- ③地域で空き家を紹介して、暮らしてもらう

●今住んでいる人が、この先も住み続けたいまち

- ・交通など不便な問題を解決して住みやすくすることで、地域外に引っ越していってしまう人をなくす。林業が廃れて、生計の成り立つ仕事が近くにない。働きに行きやすくするためにも交通が大事

(2) それに向けたまちづくり

●外から人が訪れるしかけづくり

- ・BBQ 場をつくって、地域で採れた自慢の野菜を楽しんでもらう。桜も植えれば名所になる。横山炭も使って、特産品のPRも兼ねる

- ・景色の素晴らしい榎尾山から七越峠のコースをPRしてたくさんの人に楽しみに来てもらう
- ・ぜんそくの人など、きれいな空気が必要な人に向けて（ターゲットを絞って）発信する

●体験居住・空き家への永住のしかけづくり

- ・地域で空き家をリフォームして、「お試し」で住める家を用意する。色々な付き合いや役もあるが、それでもこの地域が好きになった人に住み続けてほしい
- ・住みたいと思った人には、空き家を紹介する。入居の条件として、自治会活動や地域の行事への参加は挙げておく必要がある

●山の維持管理

- ・林業は成り立たないが、災害防止のために、維持管理は持ち主がしている。地域外から森林ボランティアがやってきて、手伝ってくれている。市でボランティア講座をしているらしく、この仕組みはとても助かっている

（３）その他

- ・一時期、ホテルを川で育てていた。今はだいぶ少なくなってしまった。これからも、コンクリートの三面張り護岸などはやめてほしい
- ・川が汚れてきて魚がいなくなった。水量が減ったからだと思う
- ・南部リージョンセンターは、売り場が狭い上、人を惹きつける機能が不足している。レストランや土産物屋などを充実してはどうか

中部地域

【３ 南松尾中学校区グループでの話し合い】

（１）地域の将来の方向性・そのための課題など

●住み続けたいまち

- ・まちづくりは「住んでいる人が主役」であることが基本で、これがまちづくりの原点
- ・都会と田舎の融合した「トカイナカ」を目指す
- ・10年後も市民が愛着を持って住み続けたいまちを目指す
- ・定住できる環境づくり
- ・住みたいポイントの一つに教育が充実していることが挙げられる

●人とのつながり

- ・人と人とのつながり、あたたかさがある
- ・人と人がつながれるまちにしたい
- ・車社会の中で、人と人とのつながりができる拠点づくりが必要
- ・寝たきり、引きこもりのお年寄りがいないまちにする

●にぎわいのあるまち

- ・人がたくさん訪れる活気のある街を目指す

●便利なまち

- ・買い物や交通が便利なまちを目指す
- ・松尾寺行きのバスは充実が必要

●自然や緑が豊かなまち

- ・ホテルが住めるような美しい水辺環境を時代に継承する。ホテルが住める＝生物の多様性につながる
- ・自然とふれあいのあるまちを目指す
- ・大型店舗が自然の近くに建てられるようになってきた
- ・野外活動やハイキングを通じて子どもも大人も豊かな自然に触れ楽しめるまちにする

(2) それに向けたまちづくり

●住み続けたいまち

- ・「住み続けられるまち」ライフサイクルのニーズに対応できる多様な住宅を供給する
- ・桃大生の定住に向けて、地域で企業（ＩＴ関連など）を誘致する
- ・家が安く建てられることをもっとＰＲする
- ・土地はたくさんあるので、家を建てる人に援助する
- ・空き家を活用できるシステムをつくる
- ・生産者の顔が見える食育を学校給食で推進する
- ・ハイレベルな、または特色ある小中高校を誘致する

●人とのつながり

- ・人が気軽に集まれる場所としてカフェ（空地の活用）などをつくる
- ・高齢者の憩いの場、年齢を問わない集いの場をつくる
- ・高齢者宅などへ御用聞きサービスをする
- ・通行を目的とする道路のほか、コミュニティを目的とした道路をつくる
- ・ウォーキングしやすい道を整備する
- ・地域の行事、お祭りを残す

●にぎわいのあるまち

- ・雇用などの面でらぼーとをうまく活用する

●便利なまち

- ・地域での買い物、医療の場をつくる
- ・乗り合いタクシーや、めぐる（コミュニティバス）の路線拡大により、それぞれの地域に見合った交通網を充実する
- ・準公共交通システム（福祉バス、コミュニティバス、介護タクシーなど）が必要

- ・コミュニティバスをNPOで運行してはどうか（行政が一部補助）
- ・巡回バスの運行が必要

●自然や緑が豊かなまち

- ・身近な自然を保全する
- ・グリーンツーリズムや農林業体験を通じて人の流れを変える（呼び込む）
- ・散歩コースの案内板の整備
- ・「里山」と「真剣に自然を保全する所」を区分する
- ・緑や自然を守っていく

●まちのPR

- ・大型店舗ができ、車交通が増えたので案内板で自然や緑野菜などをアピールする
- ・和泉市は住みやすいことをもっとPRする
- ・小中学校の少人数化が進み、廃校になるとの声があるが、悪い子はいないのでもっとPRしてほしい
- ・地域にしかない名物を発信する
- ・道の駅のPRを強化する

4 グループ別発表

各グループで出た意見の概要を紹介し、全体で共有しました。

5 閉会

次回の開催日時と内容について、説明がありました。

- ・ 開催日時：平成27年1月下旬から2月中旬を予定
（開催日が決まり次第郵送にて案内）
- ・ 内容：第1回・第2回の意見を踏まえ、「地域のまちづくり方針（案）（地域別構想案）」
についての意見交換

以 上